

## [成果情報名]夏秋トマトの有機栽培適品種

[要約]夏秋トマトの有機栽培に適した品種は、着果性が良く、裂果の発生が少ないため収量性や可販率が高い「りんか409」である。

[担当]総農セ・高冷地振興セ・野菜作物科・石川寛人

[分類]技術・普及

---

[課題の要請元]農業技術課、農業大学校

## [背景・ねらい]

夏秋トマトのなど収益性の高い果菜類は、有機栽培農家の夏季の主力品目であるが、栽培期間が長く病害虫の被害も受けやすいため安定生産が難しい。

そこで、高冷地における有機栽培に適した夏秋トマトの品種を選定し、安定生産に向けた技術の一助とする。

## [成果の内容・特徴]

1. 夏秋栽培向けの8品種を高冷地（北杜市：標高 747m）で供試し、2年間試験を行ったところ、「りんか409」が適している。「りんか409」の特徴は以下のとおりである。

(1) 着果性が良く、生育期間を通じて安定した収量を得ることができる。収穫果数が多く、裂果の発生が少ないため、可販収量が多く、可販果率が高い。

(2) 「桃太郎8」とほぼ同等の食味である。疫病は発生するが、「桃太郎8」と同等程度の強さを持つ。

2. 耕種概要（各品種共通）

- ・栽培時期：2009年 播種 5/8、鉢上げ 5/25、定植 6/26、収穫 8/7～9/29  
2010年 播種 4/21、鉢上げ 5/7、5/20、定植 6/14、収穫 7/23～10/15
- ・整枝法：主枝1本直立仕立て
- ・栽植密度：畦幅 220cm（床幅 120cm）、株間 50cm、条間 70cm、2条植え、180株/a
- ・施肥量：2009年 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O基肥=25.7-45.0-32.5、追肥=2.0-0.3-1.5 (kg/10a)  
2010年 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O基肥=21.8-40.5-29.9、追肥=8.0-4.6-5.6 (kg/10a)
- ・使用肥料：牛ふんカグズ堆肥、菜種油粕、発酵鶏糞、サンライム、有機アグレット816、有機の液肥
- ・使用資材：育苗培土「有機園芸培土」、鉢上げ「12cmポリポット」、定植床「黒マルチ」  
雨よけ支柱はトマト用のアーチパイプを使用し、ビニールを展帳
- ・薬剤散布：2009年 BT剤を4回散布  
2010年 BT剤を8回、気門封鎖型殺虫剤を3回散布

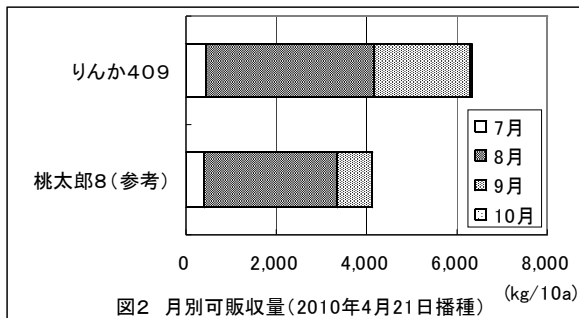
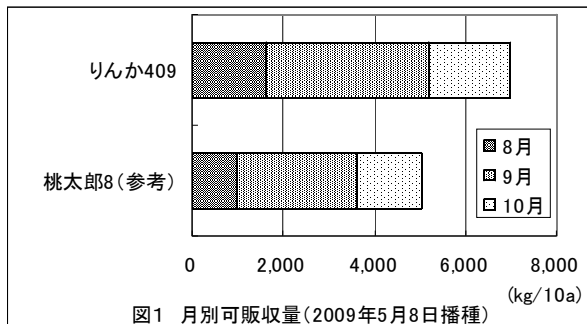
## [成果の活用上の留意点]

1. 「りんか409」は、葉かび病に耐病性を持つ。
2. オオタバコガの発生が多い場合は、BT剤等を用いて適宜防除を行う。

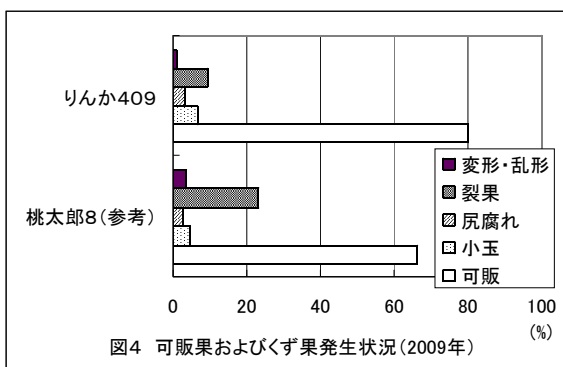
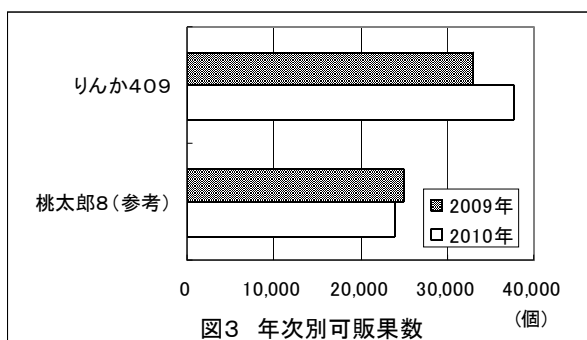
## [期待される効果]

1. 栽培期間の長い夏秋トマトの有機栽培における適品種が明らかになることで、安定生産技術の一つとして利用できる。

[具体的データ]



※可販果：110g以上で裂果、変形、乱形が軽微で、尻腐れ、窓開き、腐敗がないもの。



※割合は、いずれも総収量に対する果数割合。

表1 食味、果実品質(2010年)

品種	食味	果実品質	
		糖度 (Brix %)	酸度 (%)
りんか409	2.7	6.2	0.37
桃太郎8(参考)	3.0	6.2	0.34

・食味評価は桃太郎8を対照とし、1:劣る～5:優れるの5段階評価(n=27)。  
 ・酸度はクエン酸換算値

表2 疫病発生状況(2009年)

品種	発病葉率 (%)	発病度
りんか409	75	24
桃太郎8(参考)	100	36

[その他]

研究課題名：果菜類の有機栽培実証と有機栽培土壌の改善

予算区分：県単（重点化）

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：石川寛人、對木啓介、赤池一彦、小澤明子